

平成30年度 全国学力・学習状況調査から見える王寺町の児童生徒

はじめに

王寺町の児童生徒の学力・学習状況における教育課題を明らかにし、学校・家庭・地域が一体となって連携・協働することにより、その課題克服に向けて取り組むために調査の分析結果を公表します。

1 調査の概要

○調査の目的

- ・児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図る。
- ・本調査の結果を児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・このような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査実施日 平成30年4月17日(火)

○調査対象 王寺町立小学校のすべての6年生、王寺町立中学校のすべての3年生

○調査内容 A:主として「知識」に関する問題、B:主として「活用」に関する問題

①教科に関する調査 小学校【国語A、国語B、算数A、算数B、理科】

中学校【国語A、国語B、数学A、数学B、理科】

- ※ 理科については、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題になっています。
- ※ 全国学力・学習状況調査が平成19年度から開始され今回で12年目の実施となりました。過度な序列化を防ぐため、平成29年度から、自治体別の平均正答率は、小数点以下を四捨五入し、整数値で示されるようになり、政令市ごとの平均正答率も公表されるようになりました。平成22年度と24年度は全体の3割程度の抽出調査、平成23年度は、東日本大震災の影響等で全国的な実施は取り止めとなったため、全児童生徒を対象とした悉皆(しっかい)調査は今回で9回目となります。理科に関しては平成24年度から3年ごとに実施されているため、悉皆調査としては平成27年度に続いて2回目の実施となります。

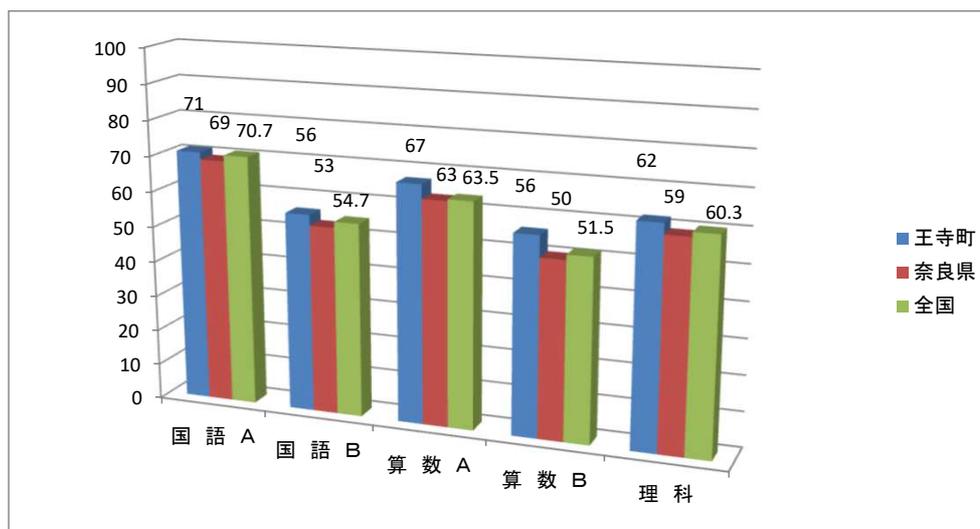
2 調査結果の概要

(1)教科に関する調査結果

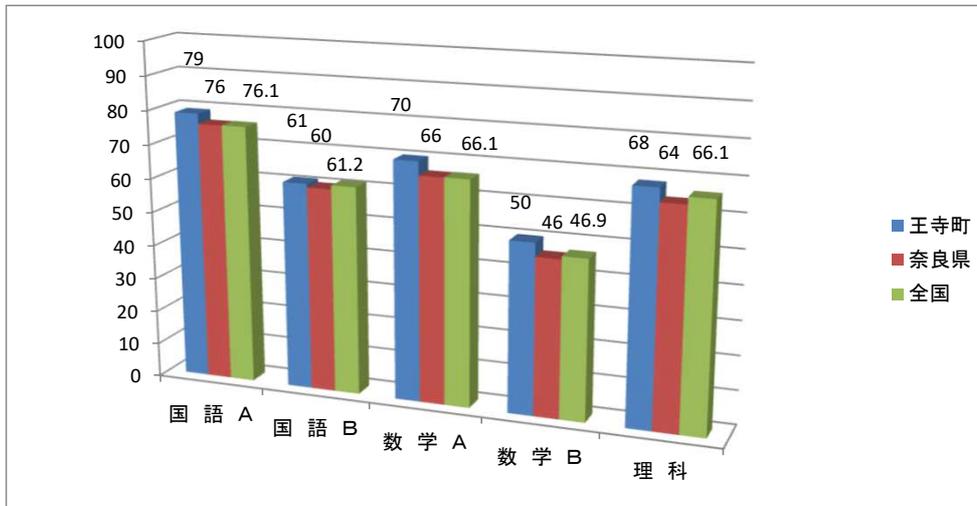
調査結果を学校種別・教科別に王寺町・奈良県・全国の平均正答率を比較しました。

【この調査結果における平均正答率等は学力の特定の一部分を表わしたものであり、学校における教育活動の一側面となります。】

小学校:国語A、国語B、算数A、算数B、理科の平均正答率



中学校：国語A、国語B、数学A、数学B、理科の平均正答率



<<全般的な出題内容と全国的な傾向>>

【3教科全体】

- ◇ 3教科の計178問のうち36%にあたる64問は、過去10回のテストで正答率が70%以下となった課題のある「苦手分野」の改善状況を調べるための出題がされました。
- ◇ 都道府県別の公立校の標準化得点(年度ごとの全国平均正答数を100と換算し、標準化した得点)の都道府県の上位層と下位層の標準化得点の差を比較すると、毎年度上位層と下位層の差が縮まる傾向が見られ、学力の底上げ傾向が続いています。
- ◇ 思考力や表現力を問う応用問題の不振は、テスト開始当初から続いていて、必要な情報を読み取り、前後のやり取りから自分の考えを軌道修正したり、相手の発言の意図を理解したりすることにより、実社会で必要とされる論理的に表現する力をいかに育てるかが課題となります。

【国語】

- ◇ 小中の国語Aで、過去の調査において一部正答率が低かった慣用句の分野で「心を打たれる」(この慣用句は小学5年生で習う)の意味を尋ねる問題が出題されました。理解の定着度合いを測るために、初めて小中で同一の言葉の意味を尋ねる出題がありました。小学校では、「心を打たれる」の使い方を選ばせ、中学校では「心を打たれる」を使った文例を記述する問題でした。
- ◇ 中学国語Aでは、文章の展開に即して情報を整理できるかを問う問題として、新聞紙の特徴や製造工程を題材にした説明文が取り上げられ、特定の段落の内容を選ばせる問題がありました。
- ◇ 給食の献立を紹介する文章など身近な事柄が題材となっていました。
- ◇ 小学国語Bで、文章構成や表現を工夫して推薦文が書けるかどうかを試す問題がありました。
- ◇ 小中とも、「書くこと」に課題が見られ、特に複数の資料から目的に合った情報を抜き出し、まとめることが苦手だと言えます。必要な情報を論理的に整理して表現する力を育成する授業の工夫と日常生活の中で本や新聞などの活字に触れ、自ら書く経験を積み重ねる必要があります。

【算数・数学】

- ◇ 算数Aで、一日の気温変化を示す折れ線グラフの特徴を読み取らせるなど、グラフや表をもとに論理的に考えさせる問題が多く出題され、数式と言葉で記述する力も問われました。(次期学習指導要領に登場するグラフの組み合わせを念頭に置いた出題)
- ◇ 算数Aで、「単位量当たりの大きさ」を求める割り算の理解を尋ねる問題がありました。
- ◇ 算数・数学では、公式などを使って単純に答えを出すだけでなく、答えを導く過程や根拠を理解しているかを問う出題が多く見られました。学校では、問題を解くプロセスに重きを置き、子供同士の話し合いで、多様な意見を引き出し深い学びに繋げていくことが必要です。

【理科】

- ◇ 理科では、小学校の大問すべて、中学校も大問の6割以上が実験や観察に関する問題で、イラストや図表を多用し、日常生活との関連を意識した出題が目立ちました。

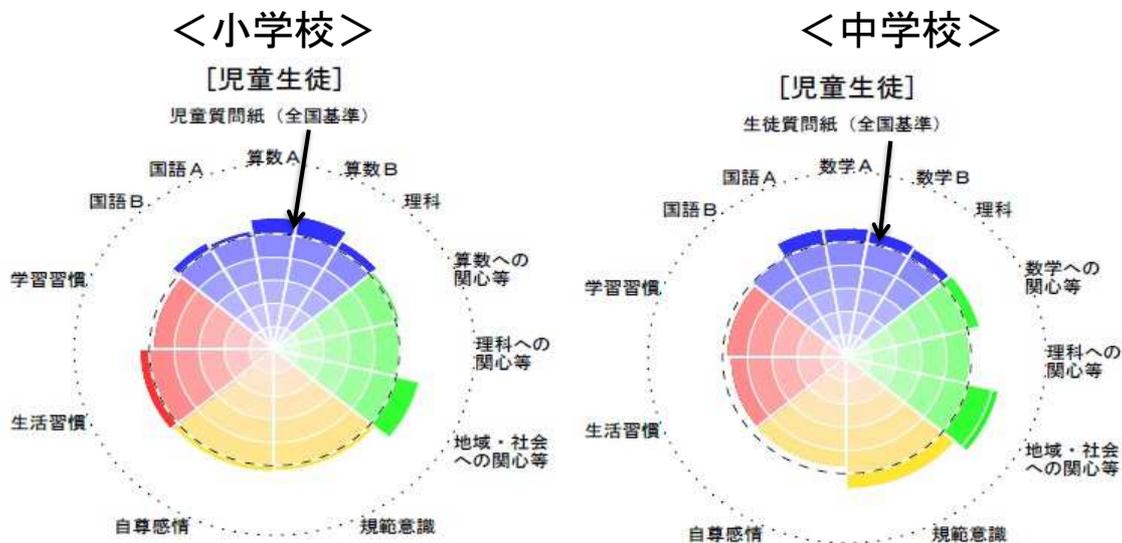
- ◇ 小学理科では、メダカを育てる水槽の水温を下げるため光電池で動く扇風機を使用する場面について、一定時間回すには、どのように電池を置けばいいか、太陽の位置の変化から考えさせる問題がありました。
(次期学習指導要領にある「ものづくり」活動の充実の視点を意識した出題)
- ◇ 中学理科では、台風や緊急地震速報に関する出題がありました。
- ◇ 小学校では「川岸の侵食」に関する実験結果から理由を記述する問題の正答率が20.2%と低く、中学校でも実験結果を考察する問題の正答率が19.8%で、実験結果に基づいて考える授業に重点を置く必要があります。
- ◇ 実験や観察を含め、基本的な知識を問う問題の平均正答率が高いが、複雑な実験や観察に関する問題は正答率が低くなりました。実験の予想を立てたり、グループで話し合ったり、じっくり考える時間を設けるなどして、深みのある実験が求められます。

【質問紙調査】

- ◇ 学校に対する質問紙調査は約80項目。児童生徒に対する質問紙調査は約60項目ありました。今回実施された理科に関する項目もありましたが、学校や児童生徒の負担に配慮して、それぞれ昨年度から30～35項目減らされました。

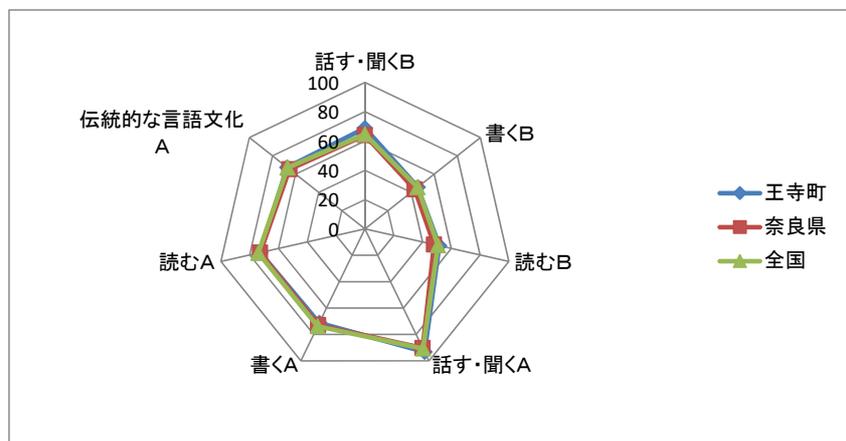
(2) 学力・学習状況調査結果の概要

- ◇ 王寺町の児童生徒の国語・算数・数学・理科の学力、算数・数学・理科への関心、学習習慣、生活習慣、自尊感情、規範意識等を全国基準と比較しました。小中学生共に、学力については比較的高位にあります。地域・社会への関心はずば抜けて高くなっています。一方、小中学生の学習習慣と中学生の生活習慣・自尊感情については、全国基準より低位になっています。いずれの項目も高位になるよう、学校、家庭、地域が協力して取り組んでいく必要があります。



(3) 学力に関する領域別調査結果

小学校 国語A・国語B 領域別正答率



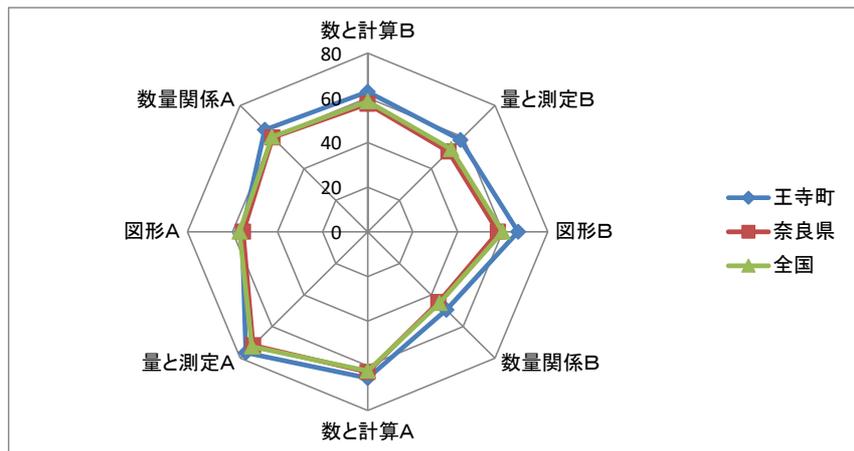
【国語A】

漢字を文の中で正しく使う問題での無解答率が全国平均よりもやや高くなっています。

【国語B】

「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く」問題の正答率は全国平均が1割台で王寺町の正答率がそれよりもやや下回りました。「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」問題の正答率は、全国平均よりも高くなりましたが、それでも4割程度でした。

小学校 算数A・算数B 領域別正答率



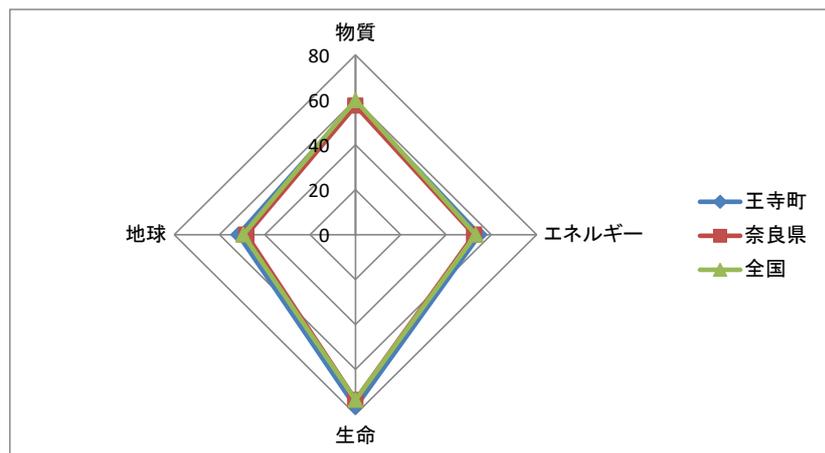
【算数A】

「異種の二つの量のうち、一方の量が揃っているときの混み具合を比べる」・「分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求める」・「百分率を求める」・「折れ線グラフから変化の特徴を読み取る」問題の正答率が全国平均よりも高くなっています。「円周率の意味について理解しているか」を問う問題の正答率が全国平均よりもやや低く、無解答率もやや高くなりました。

【算数B】

B問題の正答率は、どの領域においても全国平均よりも高くなっています。

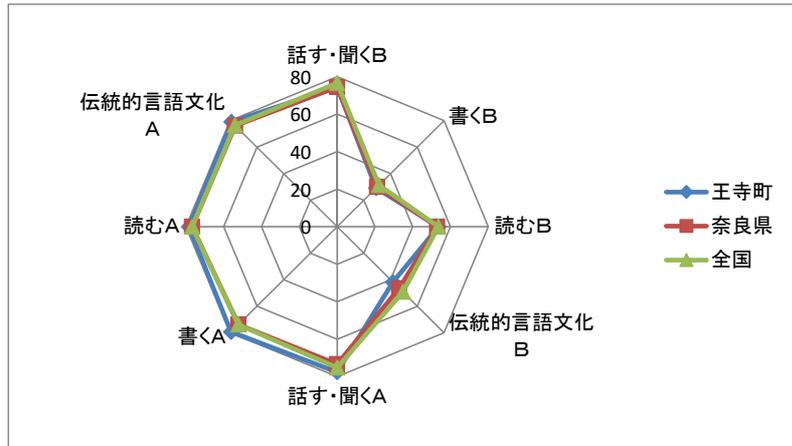
小学校 理科 領域別正答率



【理科】

「大雨が降って流れる水の量が増えた時の地面の削られ方」・「食塩を水に溶かした時の全体の重さ」・「食塩水を熱したときの食塩の蒸発を問う」実験の問題の正答率が全国平均よりも低く、無解答率も高くなりました。

中学校 国語A・国語B 領域別正答率



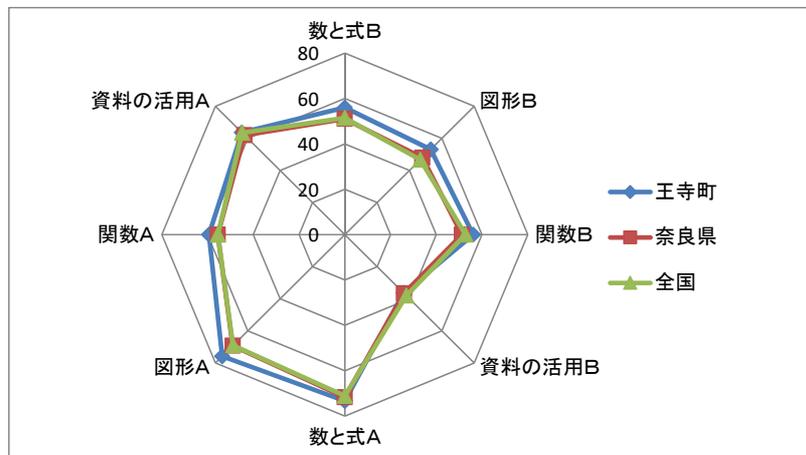
【国語A】

「伝えたい事実や事柄を相手に分かりやすく書く」・「段落相互の関係に注意し、分かりやすい文章にする」・「適切な敬語を選択する」・「行書の基本的な書き方を理解して書く」・「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いにして読む」問題の正答率が全国平均よりも高くなりました。

【国語B】

「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」問題の正答率は全国平均よりも高くなりましたが、「全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す」・「相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く」問題の正答率は全国平均よりも低くなりました。また、「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く」問題の正答率は全国平均よりも若干高くなったものの、全国平均共々低位で、全問題の中で正答率が最も低い結果となりました。

中学校 数学B・数学B 領域別正答率



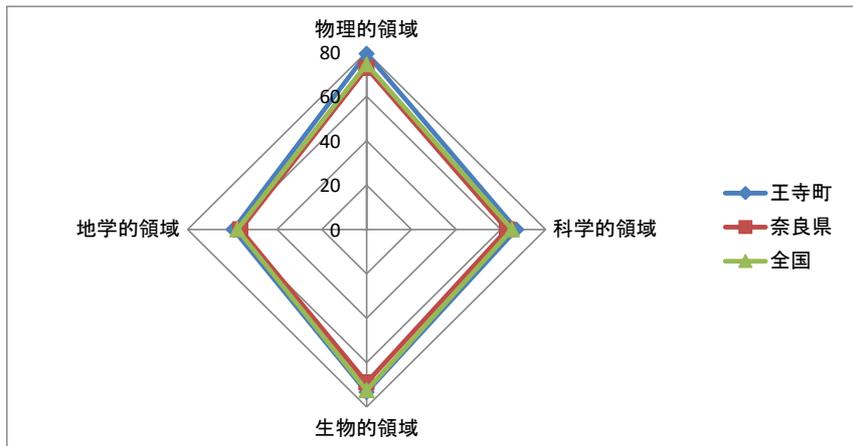
【数学A】

全36問中、9割以上の問題が全国平均よりも良好であり、特に、「空間における平面と直線の位置関係」・「一次関数について、Xの値の増加に伴うYの増加量を求める」問題の正答率は全国平均よりも随分と高くなりました。一方、「数量の大小関係を不等式に表わす」・「一次関数の意味」・「確率の意味」の問題の正答率は、全国平均と同様に、正答率が4割に満たない状況でした。

【数学B】

「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」・「与えられた情報から必要な情報を選択して処理する」・「数学的な表現を用いて説明する」問題の正答率は、全国平均共々1割台でした。資料の活用B以外の領域については、全国平均より良好でした。

中学校 理科 領域別正答率



【理科】

「ヒトの刺激と反応時間を測定する実験」・「電流計の接続方法・電流計の電気用図記号・電流値の読み取り・オームの法則を使った抵抗値の計算」・「市販の発熱パックの成分と温度上昇を調べる実験」の問題の正答率は全国平均よりも高くなりましたが、「濃度が異なる食塩水から特定の質量パーセント濃度のものを指摘する」・「コンピュータを使った台風の進路予想や風向と気象条件」の問題の正答率は全国平均よりも低くなりました。

3 児童・生徒質問紙調査の経年変化

町立小・中学校の児童生徒に学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査が実施されました。平成25年度～30年度の経年変化について整理し、その中から特徴的な項目を抜粋しました。

① 【朝食を毎日食べていますか】

小学校では、経年の傾向としては95%前後の児童がほぼ毎日朝食を食べていますが、昨年度・今年度の2年間はやや減りました。一方、中学校では、ほぼ毎日朝食を食べている生徒の割合は以前の減少傾向から、この2年間で約90%に回復しました。

② 【学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間勉強をしていますか】

例年の傾向として、2時間以上勉強している児童の割合は40%台前半で、全国平均より約15ポイント高く、2時間以上勉強している生徒の割合は50%台後半で、全国平均より約20ポイント高くなりました。

③ 【学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間読書をしていますか】

平成28年度までの児童生徒の読書時間の割合は、全国平均と比較しても特徴的な点はありませんでしたが、平成28年度からの「1日当たり30分以上、1時間未満は読書をしている」生徒の割合が段々増え、平成30年度の割合は60.6%まで増加し、全国平均より約22ポイント高くなりました。

④ 【今住んでいる地域の行事に参加していますか】

例年の傾向として、地域行事に参加している児童生徒の割合は、全国平均よりも高くなっており、年々その差も広がっています。平成30年度の「参加している+どちらかといえば参加している」割合は、児童で80%、生徒で71%になりました。

⑤ 【地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか】 ※28年度から設置された質問

平成29年度からボランティア活動に参加した児童生徒の割合が増加し、平成30年度は、児童が約75%、生徒が約95%に達し、全国平均よりも児童12ポイント、生徒21ポイント高い割合となりました。

⑥ 【新聞を読んでいますか】

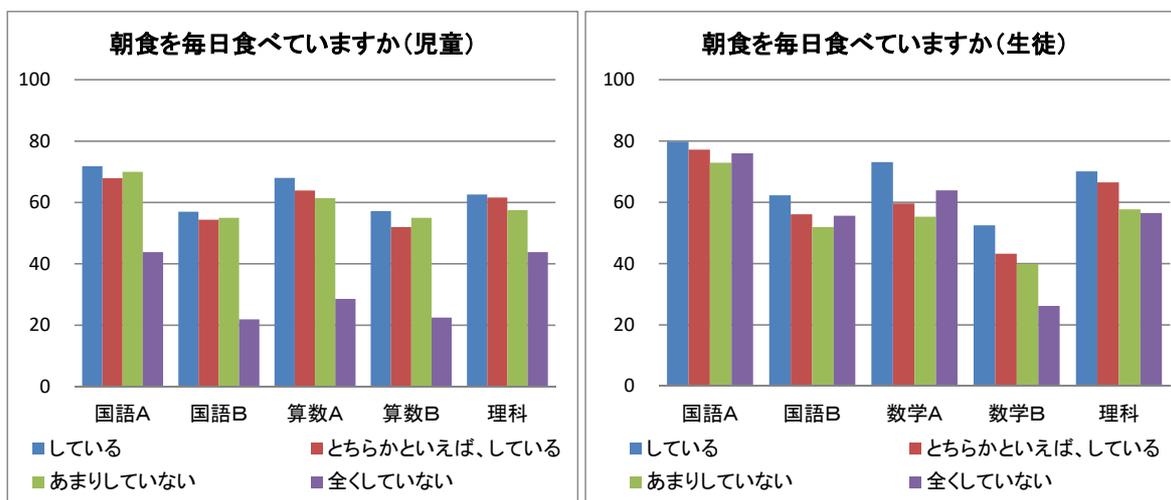
「ほぼ毎日読んでいる+週に1～3回読んでいる」と回答した割合は、平成29年度から増え始め、平成30年度は児童約30%、生徒約40%になりました。

新聞を読んでいる割合が伸びない背景として、新聞を定期購読している家庭が減ってきていることが考えられますが、王寺町では、平成28年度から小・中学校の各教室(小学校は5・6年生の教室)と学校図書室に新聞を配置し、各学校がNIE(Newspaper In Education=学校で新聞を教材として活用する)教育に力を入れていることが、効果をもたらしていると考えられます。

4 家庭への提案

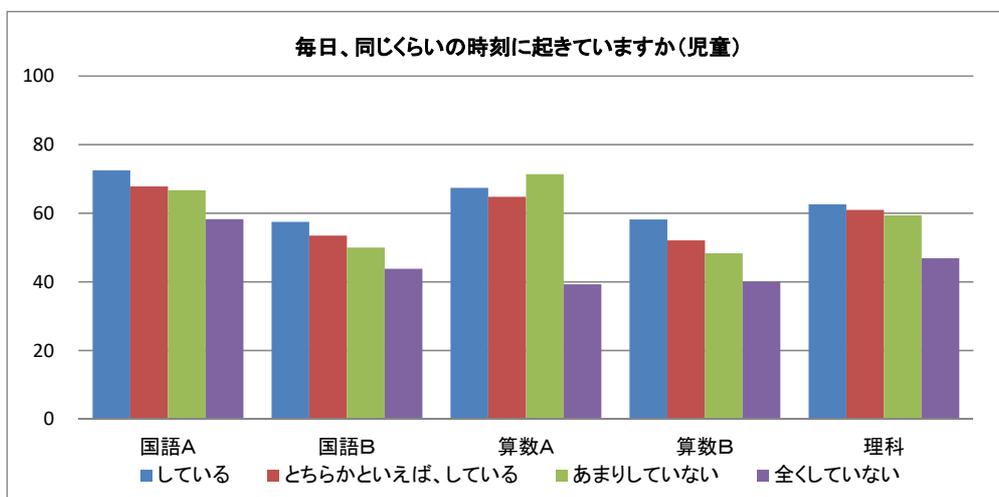
児童生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査と国語A・B、算数(数学)A・B、理科の各教科正答率との間に相関関係が見られる項目がありますので、今後、お子様の家庭生活を見直す資料にさせていただきたいと思います。

<<質問紙調査と各教科正答率との間に見られる特徴的な相関関係>>

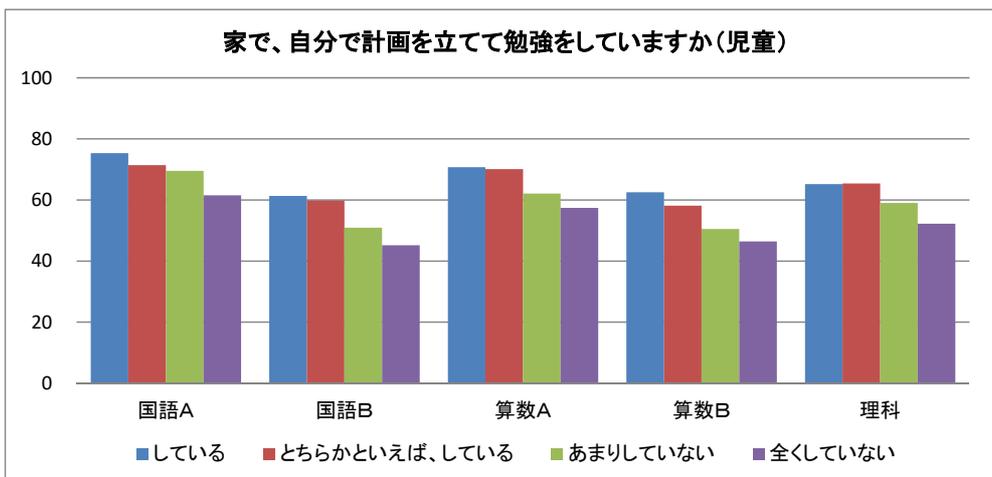


朝食を毎日食べている児童生徒は、正答率が高い傾向が見られます。

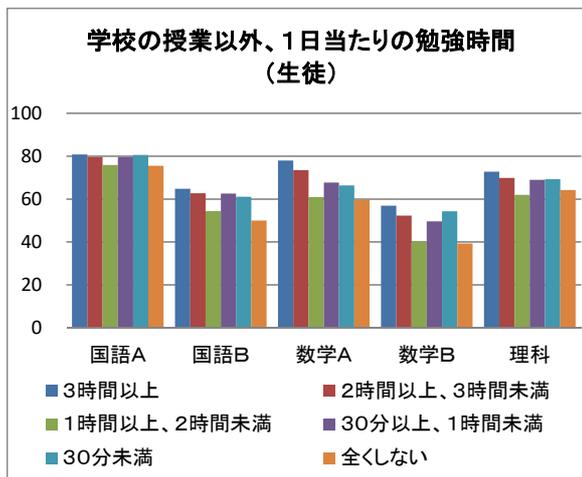
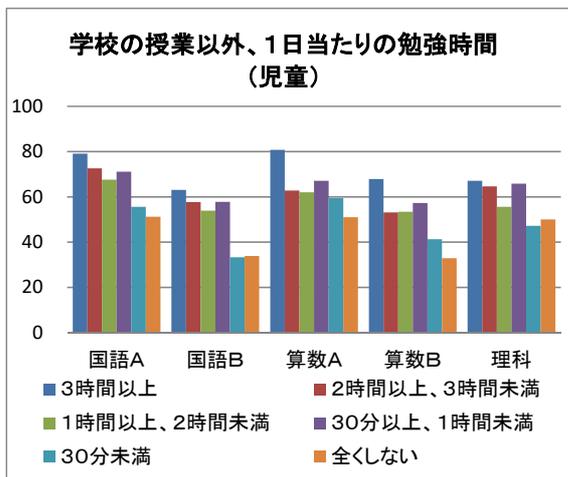
(注)朝食を毎日きちんと食べている児童生徒の割合は、児童83.3%、生徒78.8%でした。



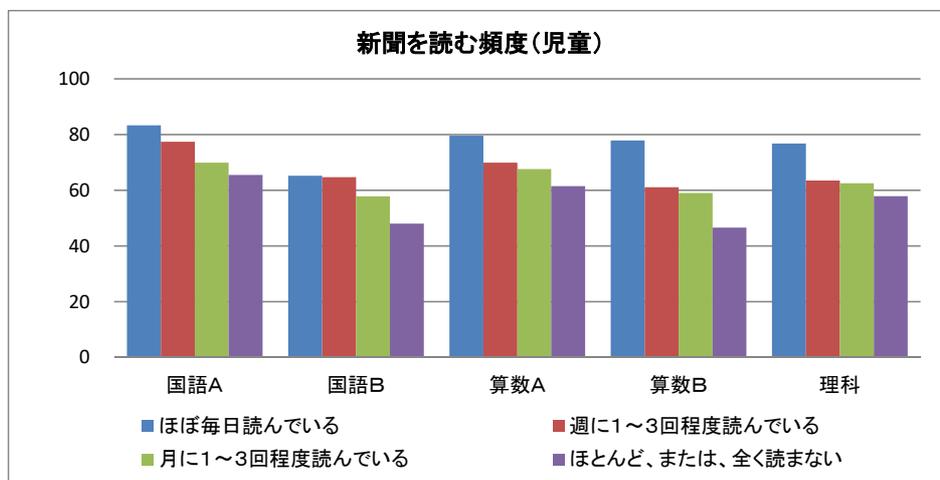
毎日同じ時刻に起きている児童は、正答率が高い傾向が見られます。生徒に関しては昨年度までは同じ傾向が見られましたが、本年度はそれほどでもありませんでした。



家で、自分で計画的に勉強している児童は、目的意識を持って効率的に学習しているので、当然のことながら各教科とも高い正答率を示しています。生徒については児童ほど顕著ではありませんが、同じ傾向が見られます。



学校の授業以外、1日当たりの学習時間をしっかり確保している児童と全くしていない児童の正答率の差は大きく、特に、B問題(活用に関する問題)で顕著です。児童ほどではありませんが生徒についても同様でした。



新聞を「ほぼ毎日読んでいる」+「週に1〜3回程度読んでいる」など読む頻度の高い児童の正答率が高く、「ほとんど、または、全く読まない」児童の正答率は、B問題(活用に関する問題)で特に低くなっています。生徒についてもゆるやかな傾向が見られます。

(注)新聞を「ほぼ毎日読んでいる」+「週に1〜3回程度読んでいる」割合は、児童約30%、生徒約40%でした。

5 王寺町教育委員会の取組

子ども達の学習への関心・意欲・態度、学習習慣、生活習慣、自尊心、規範意識等をより醸成するために、王寺町教育委員会と幼稚園・小学校・中学校が連携して様々な取組をしています。また、以下の様に、学校教育分野だけでなく生涯教育分野も含め様々な施策を実施しています。学校をはじめ、家庭、地域、行政等が目標を共有しながら協力して取り組んでいます。

○教職員研修の充実による教師力の向上

「分かりやすい授業」「やる気を引き出す授業」を構築するための授業研究、ICT等を活用した指導方法の研究など教職員の指導力向上のための研修を奨励しています。

○教育施設・設備の整備

幼児・児童・生徒が安全・安心で快適に学校(園)生活を送ることができるように、学校(園)施設・設備を整備し、教育環境を充実させ、教育効率を向上させるよう努めています。

○「学校いきいきプラン」事業の実施

各小・中学校に教員資格を持つ町費講師を加配し、児童生徒の学習レベルの向上、集団への適応能力の向上、特別支援教育、生徒指導等に効果を上げています。(各幼稚園には特別支援教育に関わる講師を加配しています。)

○学校・家庭・地域の三者連携による教育力の向上

「地域に開かれた学校づくり」「地域の子どもを地域で見守る」「子ども達の発達段階に応じた形で社会参加・社会貢献する」という3つの視点を大切にし、学校を拠点とした子ども達と地域の人々をつなぐ「学校・地域パートナーシップ事業」を実施しています。

○挨拶運動の推進

王寺町あげての挨拶運動(「あいさつ+1」運動)を実施し、日常的な挨拶を通して幼児・児童・生徒の規範意識だけでなく、社会性やコミュニケーション力を育てています。

○外部人材を活用した教育活動の実施

幼稚園・小学校において、奈良学園大学をはじめとする近隣の大学生による学校教育への支援を受け、より丁寧な教育内容を提供し、学生自身が教育現場で経験を積むことにより、今後の人材育成につなげる授業支援学生ボランティア活動を実施しています。

○読書活動の推進

豊かな感性や情操を育むため、学校図書館司書を配置し、読書活動の推進、蔵書管理システムの導入や図書の購入等による学校図書館の充実を図っています。また、町立図書館との連携強化も図っています。

○幼稚園、小学校、中学校を通した外国語(英語)教育の実施

幼稚園では英語体験保育、小学校では低学年から外国語(英語)教育に力を入れています。幼稚園と小学校にネイティブスピーカーである外国人講師を派遣し、幼稚園～小学校～中学校まで切れ目のない外国語(英語)教育に取り組んでいます。

○放課後学習支援事業として王寺町寺子屋塾(愛称:雪丸サポートスクール)の実施

小学4年生～中学3年生までを対象として、小学生は週3回各2時間ずつ、中学生は週2回各2時間ずつの王寺町寺子屋塾(雪丸サポートスクール)を実施しています。地域の経験豊富な人材を活用し、児童生徒一人一人の学力及び学習意欲の向上と学習習慣の定着を図り、地域教育力の強化を目的として実施しています。

6 保護者・地域の皆様へ

- ☆「早寝、早起き、朝ごはん」が生活の基本となります。これからも規則正しい生活を続けましょう。
- ☆ 学校の授業で習ったことの復習と予習を中心に家庭学習の習慣を付けましょう。
- ☆「褒めて伸ばす」「認めて伸ばす」ことが自己肯定感の育成につながり自尊感情が醸成されます。
- ☆ 児童生徒の規範意識の向上には、学校・家庭・地域が欠かすことの出来ない大切な役割を果たします。規範意識の高い環境づくりに取り組みましょう。
- ☆ 家族で地域の行事やボランティア活動に参加し、社会で起こっている出来事を話題にするなどして、社会生活に関心をもち、社会参画意識を醸成するよう心掛けましょう。